

静岡県立焼津中央高等学校令和7年度第2回学校運営協議会 議事録

I 概要

- 1 開催日時 令和7年5月31日(土) 午前11時から午後0時30分
- 2 開催場所 静岡県立焼津中央高等学校 応接室
- 3 出席者数 6人
- 4 欠席者数 1人
- 5 協議資料 令和7年度学校経営計画書

II 議題等(次第順)

- 1 委員及び学校関係者紹介
- 2 校長挨拶
- 3 協議
 - (1) 学校運営協議会設置要領
 - (2) 会長及び副会長の選出
 - (3) 令和6年度学校経営報告書及び令和7年度学校経営計画書
- 4 その他
 - (1) 令和7年度行きたい学校づくり事業について

III 協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 1 会長及び副会長の選出について
- 2 第1回学校運営協議会(書面開催)における意見について
スクール・ポリシーの説明に関する意見は、令和8年度の学校経営計画に活かすことで承認を得た。
- 3 事務局説明
副校長より令和6年度学校経営報告書について、校長より学校経営計画書について、教頭より令和7年度「行きたい学校づくり」推進事業について説明を行った。
- 4 意見交換
 - (1) 学校経営計画について

<A委員>学習指導要領は学校教育活動の根拠となるもの。先生方には、常にそこに立ち戻り自らの教育活動を見直すようにする意識が重要。

<B委員>各学校の差別化・魅力化は喫緊の課題だが、少子化のみに起因するものではない。藤枝東高との違いをどのように出していくか、差別化をどう図るかが課題。個性の活かし方が勉強しかない学校ではなく、探究活動や部活動など勉強以外でもやりたいことができる学校であることが魅力ではないか。社会に出てから活用できる力を育てる焼津中央の強みについて検討し、どのように発信するかが問われる。

<校長>公開授業を活性化するために、今年度は年間2回の公開授業期間中、他教科の教員とチームを組み、相互に授業を見学し、自分の教科や単元の計画、評価について検討し、授業改善について考える機会にした。また、そのことが生徒の学習改善につながればと考えている。

<C委員>他教科の授業から学ぶためには、生徒の状況や学習内容の定着度など、自分の授業と比較し「なるほど」と思えるようなところが見つけられるとよい。単元で考えるという授業計画が重要。

<D委員>ICT教育が義務教育から高校に上がる時に途切れてしまうことはないか。生徒が

今の授業を理解できるか、主体的に動けるかを測ることで次の高みに向かえるのでは。

<E委員>情報社会は、自分の興味のある情報を探しに行くと、自分が好きで得意な分野に情報が偏るようになり、興味の薄い分野には目が向かなくなる恐れがある。万遍なく知識を習得できるのは高校生時代が最後なのではないか。その意味でも「たしかな知性」を育てる教育を進めてほしい。

<F委員>子どもに聞くと、楽しい授業と退屈な授業があるそうだ。若い先生の授業の方が工夫がある。年配の先生のプリントだけの授業も、プリントのどこを説明しているかわからないこともあるそうだ。

<A委員>避けるべきなのは、黒板と説明だけの授業、活動ばかりで学びの無い授業、説明ばかりの授業。生徒が追究してみたい課題を解決していくような授業の工夫が必要。また、単元計画（学びの過程）を重視する中で、先生方が個々に技量を高めていく事が大切。

(2) 行きたい学校づくり事業について

<B委員>「行きたい学校づくり」事業はプロパガンダ的に捉えられる恐れもあるので、やり方を間違えないでほしい。

<D委員>私立高校無償化や公立高校学区撤廃により、それぞれの公立高校が何を「売り」にするのかが問われる。藤枝東や島田、藤枝明誠や静岡高校と比べた時の焼津中央の良さは何か。「行きたい学校づくり」で教師への関心を高めるだけではなく、焼津中央独自で生徒の得意な分野や個々の能力を引き出すような取組が大切ではないか。

<E委員>小学校の支援員を10年ほど続けているが、若い先生に焼津中央高校出身者が多い。実際に志のある生徒が多いのであれば、教職の魅力を伝えることは意味がある。

<B委員>どんな子供も学びたい気持ちを持っている。教職に興味を持つ学生を増やすのに、高校生から取り組むのは良い流れだと思う。デザイン思考という考え方があるが、デザインがよければ、職員全員が同じビジョンを持つことができる。

IV その他

<C委員>（勤務先大学の少子化に向けた取組について）子どもの数が本格的に減少する前にある程度の地位を固めてしまう方針。「来たい学校にする」ことを重視。経営的なセンスはすべての教職員が持っている必要があり、「明日は来なくなる学生がいるかも」という危機感は常に持っていたい。

<B委員>「デザイン」という言葉がキーワード。社会や学校をどうデザインしていくかが大切。

<C委員>デザインがいいと組織のビジョンを揃えることができる。大局的なデザインにどのように枠を組み合わせしていくかの検討が大切。

上記内容を確認しました。

議事録署名人

(氏名) 後藤 陽子

(氏名) 田代 直幸